

「240の現状と将来に危惧を感じ、年頭に想う」

JJ1SXA 池

今年は、長野オリンピックも華やかに開催され、21世紀も直ぐそこまで足音が近付いてきました。

240グループの活動も18年目となりましたが、奇しくもこのグループの20周年は、西暦2000年です。

幾多の変遷を経て歴史を重ねている、240グループの20周年を盛大に迎えたいと思っているのは、私一人だけでは無いと思います。

低迷する景気、この不況の中で迎えた新年も、早々から大雪に見舞われ、昨年の大手金融関連会社等の倒産劇に続き、今年もまだまだ何が起きるか予断を許さない厳しい年になりそうです。

そんな中で、無線の方に目を転じると、サイクル23の立ち上がりは順調の様子で、HFのハイバンドのコンディションも徐々に上がって来ています。

50MHzも、正月にJR6が開けましたし、このバンドのコンディションも、前々サイクルの時のように、モービルから、オーバーシーのDX局と簡単にQSOできるようになったり、私の取り残した、EUやAFともFBにQSOでき、50MHzのWACが完成できるというような素晴らしいコンディションを期待する事、大です。

今年のイベントの日程も決定していますし、来年は、関東モービルハム同好会の幹事グループにも指名されています。

240グループは、50MHzのSSBをモービルから運用する者が、モービル同士で如何にうまくQSOできるようにするかという事で、情報を提供し合い、技術の向上に切磋琢磨し、そして仲間を一人でも多く増やし、行く行くは全国何処へ行っても、240で声を出せば、必ず声を掛けてくれる仲間がいるようにしたいというような、そんな希望でスタートしました。

17年も経つと社会情勢は大きく変わり、アマチュア無線の態様も同様に変わってきました、リグの性能は格段にアップし、免許される出力も倍増、アンテナも大型化し、色々のモードの通信方式も増え、又、情報の入手方法も随分変わってきています。

時代の推移と共に、240の在り方、運用方法等について、当然見直す点もあろうかと思いますが、基本的には、50MHzのSSBモービルに興味のある者は、誰でも参加自由であるというのが、このグループです。

240のより良い運用と発展の為に、過去に討議され、検討されて積み重ねてきた、申し合わせ事項、了解事項を全員が再認識し、何事にも合議制を守り、グループの和を保っていく必要があると思います。

自由のグループと言っても、やはり、目的を持った集団です、誰が何をやっても良い、何を言っても良いというような勝手集団となる事無く、240のキーワード「より強く、

より遠く」そして「紳士的な言動」を守り、お互いの一寸した心配りと、少し謙虚な気持ちを持って、グループの和を深め、結束を固め、来る21世紀に向け、そして240グループの20周年に向け、全員が一体となって進みたいものです。

現在参加している人達の顔触れは、初期の頃からの人、最近新しく参加した人、又、以前参加していて途中で中断の期間があって再登場の人、そして技術や経験もマチマチ、多士済々です。

アマチュア無線は、年齢、職業、性別、国籍、経験の長短や資格や技術の差を超えて、電波という公共の資産を使って、人と人とがお付き合いできるというところに、この趣味の素晴らしさの原点があるのでは無いでしょうか。

50. 240MHzSSBモービルグループは、このような思想のもと、50MHzSSBのモービル運用に興味があるという局が集まっている筈ですが、永年かけて培ってきた、このグループの良き風習も大分風化され、惰性に流されている感があります。

アマチュア無線に対する考え方は、人それぞれに違いはあって当然であり、その考え方を個々に主張し、推進するのは、本来自由であるべきだと思います。

然し、このグループは、50MHzSSBのモービル運用に興味があり、その発展を願うという共通点を持った人の集まりです、集団の中では、当然に、個の主張は制約を受けると共に、人間関係が生じます。

人間関係のお付き合いがある以上、個々には好き嫌いがあるのは当然ですが、アマチュア無線という共通の趣味、更にはもっと狭義に50MHzSSBモービルを愛するという共通点を共有する集団の中では、お互いに理解し、協力し、妥協できる一面は必ずある筈です。

又、モービル運用がメインというグループである事を考えれば、運転免許年齢から必然的に、皆大人であり、良き社会人、常識人である者の集まりである筈です。

常々私は、最大公約数という事を述べてきたつもりですが、これは、年齢、アクティビティ、技術レベル等に差がある多数の人の集まりで、大多数の人が望んでいる方向にグループの方向を定め、足並みを揃え、まとまっていくための基本姿勢として、吟味し、集約される多数意見を最大公約数と考え、これを取り上げていく必要性があり、これを貫くべきであるという考え方です。

私も例外ではありませんが、人間ある事に熱中すると、側面が見えにくくなります、そのため、時々は一歩退いて物事を見直す事も必要であり、ある局面にとらわれず、全体像がはっきりするまで我慢する事も大事であると思っています。

集団の行動には、和という事が不可欠です、そして、この和のためには、一人一人が、他人に対するいたわりの気持ちと心配り、そして何時でも初心に帰れる謙虚な気持ちを持って、自分も楽しむが、相手も楽しませる、そんな心掛けが必要であると考え

ます。

20周年を目前にして、昨今の240グループの現状と将来に不安と危惧を感じ提唱します。

皆さん、もう一度、240の原点を振り返り、主旨を理解し、運用心得を実践し、グループの和を深め、全員一体となって、240が益々発展するよう頑張ろうではありませんか。

TWO-FORTY 誌・第10号(平成10年3月発行)掲載記事